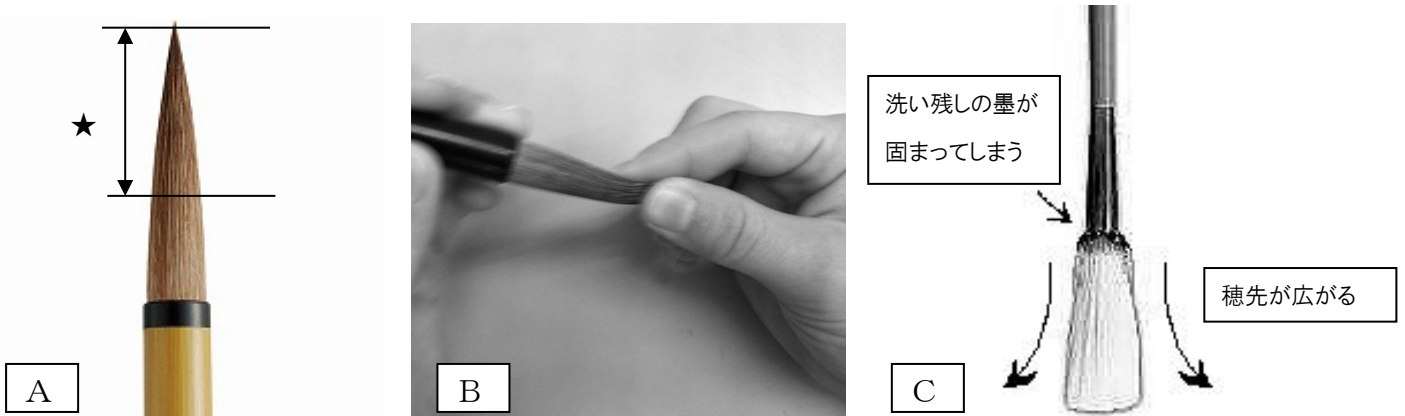


— 太筆のお取扱い方法 —

1. おろし方

穂先から約 2/3 程度の部分までをおろします（図 A ★部分くらいまで）。初めて使用する時は、親指と人差し指の腹を使って、穂先から徐々に揉みほぐします（図 B）。初心者の方はおろしすぎると書きづらくなりますので、丁寧に行ってください。固くてほぐしにくい時は、★部分あたりまでを水につけながら行うとほぐしやすくなります。



2. 墨のつけ方

おろした部分まで墨を含ませ、硯の岡（陸・墨堂）で穂先を整えます。

穂のフ糊を残す場合には、墨を含ませ過ぎますとフ糊が柔らかくなり落ちてしまいますので、ご注意ください。

また、根元まで墨を含ませた場合、穂先を洗う前に穂が乾燥してしまった際に、軸と穂の境目において墨が固まってしまい、穂先が広がる原因に繋がることがございます。酷くなると軸が割れることもございますので、根元まで墨を含ませた際には、長く放置しないようご注意ください（図 C）。

3. 使用後のお手入れ方法

穂先が乾燥し固まる前に流水に当てながら（またはバケツなどに水を溜めた中に浸けながら）墨のついた部分を指で優しく揉み洗いします。おろしていない部分のフ糊を残す場合は、洗いすぎるとフ糊が全て落ちてしまうのでご注意ください。墨が出てこなくなるまで十分に揉み洗いしたら、指の腹で穂を挟みスライドさせながら水分を搾り取ります。もしくは、布や紙などで穂先を整えながら水分を取り除いて下さい。軸と穂の境目は洗い残しが生じやすいため、洗う際にはご注意ください。

その後、癖がつかないように穂先を整え、穂を下にして、吊り下げて陰干しさせます。十分に乾燥させたのち、筆巻きに包むか、吊り下げたままで風通しの良い場所など、湿気の少ない場所に保管してください。寝かせて乾燥させた場合や、穂先を整えなかった場合には、毛癖がついて穂割れの原因となる場合がございます。

次回ご使用の際には、おろしている部分までを指で軽くほぐしてからお使い下さい。

ご注意

・筆は乾燥が充分でない場合や乾燥できない状態で保管いたしますと、腐敗などから「異臭」のほか、毛の傷みから「毛切れ」や「毛抜け」が発生することがございます。太筆は細筆と比較して、乾きにくいので、十分な乾燥時間を設けてください。書写入門には耐久性に優れた人造毛用を使用し、腐りやカビの心配がなく学童にも取り扱いやすい「くれ竹優筆シリーズ」がおすすめです。

・穂先についている保護キャップは、一度穂先に墨をつけた後は捨てるようにしましょう。筆洗後、保護キャップをはめ込むと、水分が抜けないので腐敗の原因や、キャップで毛をはさみ込んで穂を痛める原因となります。